

エネルギー対策等の推進について

作成年月日	令和6年4月16日
作成部局名	企画部総合政策課

目次

I	エネルギー対策等の推進	
1	水素社会の実現に向けた取組の推進	03
2	海洋エネルギー資源開発の推進	08
3	発電所周辺地域の振興	09
II	総合的な水資源対策等の推進	
1	ひょうご水ビジョンの展開	10
2	水資源対策の推進	11



Ⅰ エネルギー対策等の推進

1 水素社会の実現に向けた取組の推進

水素社会の実現に向けた取組の方向性等を示す「兵庫水素社会推進構想」（平成31年3月策定）のもと、2050年カーボンニュートラルへの貢献が期待される水素エネルギーの普及拡大を図る

(1) 「兵庫水素社会推進構想」の概要

県としてめざすべき水素社会の姿を共有し、水素社会の実現に向けた取組の方向性を提示

水素利活用の拡大、社会への普及 [短期的取組]

- ① FCモビリティ（FCV、FCバス等）の普及促進
- ② 燃料電池（家庭用、業務・産業用）の普及促進
- ③ 水素関連分野の技術開発や新たな事業創出等への支援
- ④ 水素への理解向上に向けた普及啓発



水素社会の実現 [2050年頃]

- **環境に優しい脱炭素社会**
 - ① CO2排出量が低減し、温暖化対策に貢献
 - ② 水素の蓄エネ機能等を活用し、高効率なエネルギー利用が実現
- **県民の快適で安心な暮らしが守られている社会**
 - ① 燃料電池等の活用により非常時にも安定的にエネルギー供給ができ、安心な暮らしが確保
 - ② エネルギーセキュリティにも寄与
- **経済の好循環が生まれ、産業や地域が活性化している社会**
 - ① 企業集積や新規参入が促進され、地域経済が活性化



水素大量消費時代を見据えた対応 [中長期的取組]

- ① 低コストな水素利用の実現（水素受入基地の立地、水素ガスタービン発電の導入）
- ② 再エネ等地域資源を活用したエネルギー自立型社会の実現



(2) 産学官が連携した取組の推進

水素社会の実現に向けた機運醸成を図り、産学官が連携した取組をさらに加速化するため、知事をトップとする推進本部のもと、取組を推進

① ひょうご水素社会推進会議の開催

産学官が参画するひょうご水素社会推進会議を開催し、水素の新たな利活用策や国際的な水素拠点の立地等に向けた研究・取組を推進

項目	内容
水素利活用の新展開	再エネの余剰電力を利用した水素の製造・貯蔵・利用など、新たな水素利活用策の研究を推進
水素大量消費時代を先導する国際拠点の形成	国際水素サプライチェーンの拠点となる水素受入基地の整備と、サプライチェーン構築後の低コスト水素の活用を検討・推進
水素の普及促進	水素社会実現に向けた理解促進・機運醸成を図るため、普及啓発を強化

【推進体制イメージ】

< 庁内組織 >

ひょうご水素・脱炭素社会推進本部

- 【構成】 本部長：知事、
副本部長：副知事
本部員：各部長等
- 【取組内容】 県施策の企画・総合調整、庁内の情報共有・連携

< 産学官連携組織 >

ひょうご水素社会推進会議

- 【構成】 企業、学識者、国、兵庫県、市町等
- 【取組内容】 水素利活用の拡大、水素関連産業の拡大、機運醸成等

< 自治体連携組織 >

水素社会実装をめざす兵庫県自治体連絡協議会

- 【構成】 兵庫県、神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、
洲本市、加古川市、高砂市、南あわじ市、淡路市、
猪名川町、播磨町 ※ 今後、適宜追加
- 【取組内容】 水素利活用の連絡調整、機運醸成等

連携

播磨臨海地域CNP推進協議会

- 【構成】 企業、学識者、国、兵庫県、市、経済団体等
- 【取組内容】 播磨臨海地域の脱炭素化の計画策定

(3) 播磨臨海地域での水素等サプライチェーンの形成

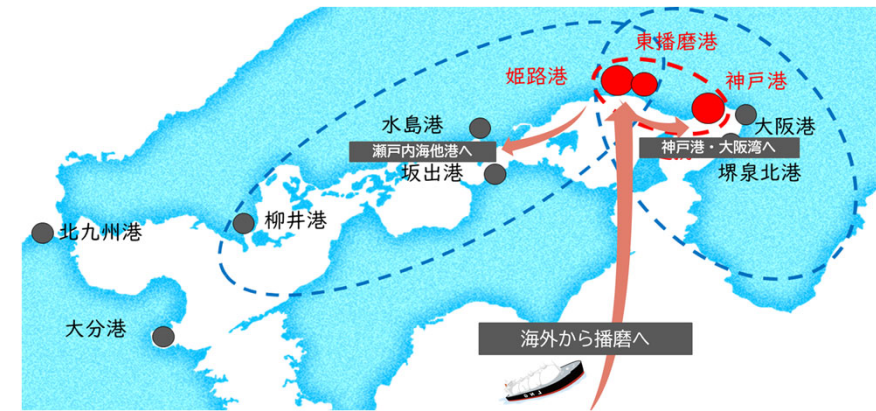
2030年頃の国際水素サプライチェーンの構築を見据え、姫路港を中心とする播磨臨海地域で水素利活用の拡大や水素等サプライチェーン拠点の形成を推進

- ① ひょうご水素社会推進会議での具体的な課題の抽出や取組の検討
- ② 播磨臨海地域での港湾脱炭素化推進計画（CNP計画）の策定（土木部） 等

【播磨臨海地域の水素等の需要量】



【播磨を拠点として瀬戸内・関西に展開】



瀬戸内・関西における水素等サプライチェーンの拠点化

基本コンセプト： 「ファースト・ムーバー 「播磨」 for 瀬戸内・関西」

(4) 普及啓発の推進

水素社会の実現に向けた県民理解の促進や機運醸成を図るため、水素エネルギーについて周知・啓発

- ① 水素の可能性や関連プロジェクトの情報発信
- ② シンポジウムの開催による機運の醸成
- ③ 県内イベントでの水素体験ブースの設置
- ④ 小学校高学年向けの動画配信や電子リーフレットの配布



高校生・大学生向け見学会
(R6.3 Hytouch神戸等)



シンポジウム
(R6.3 神戸ポートピアホテル)



水素実験教室
(R5.10 姫路港ふれあいフェスティバル)



小学校高学年向け動画(R5年度制作)



小学校高学年向けリーフレット(R5年度制作)



(5) 水素モビリティの普及（環境部所管）

水素ステーションの整備や燃料電池車等の導入を支援し、水素モビリティの普及を促進

(6) 水素関連企業の集積（産業労働部所管）

企業が行う水素関連の設備投資や新製品の試作開発を支援し、水素関連企業の集積を促進



ネッツテラス三木水素ステーション開所式（R6.2）

<参考> 水素社会推進法案（R6年2月閣議決定）

- 1 「脱炭素成長型経済構造への円滑な移行のための低炭素水素等の供給及び利用の促進に関する法律案」の概要
 - (1) 低炭素水素等の供給・利用を早期に促進するため、国は、基本方針の策定や計画認定制度の創設、計画認定を受けた事業者に対する支援措置や規制の特例措置を講じる。
 - (2) 自治体は、国施策へ協力し、供給・利用施策を推進。事業者は、安全を確保しつつ積極的に設備投資等を行う。
- 2 計画認定を受けた事業者に対する支援措置

国による計画認定を受けた事業者に対し、「価格差に着目した支援」や「拠点整備支援」等を実施



2 海洋エネルギー資源開発の推進

国産のエネルギー資源として期待の高い「表層型メタンハイドレート」の開発を促進するため、国への働きかけや県民への広報活動を実施

(1) 「海洋エネルギー資源開発促進日本海連合」の取組

日本海側の12府県で構成する「海洋エネルギー資源開発促進日本海連合」において、国に対して商業化に向けた研究開発の着実な実施を働きかけ

- ① 国への要望（R5年6月、内閣官房、経済産業省）
 - ・令和6年度予算（調査費等）の確保、研究開発の着実な実施
- ② 「日本海海洋資源フォーラム」の開催（R5年11月、富山県）



経済産業大臣への要望(R5.6)

(2) 県民への広報活動

メタンハイドレートに対する県民の理解促進に向けた啓発（R5年10月）

- ・専門家によるメタンハイドレートの燃焼実験や開発状況の紹介等



メタンハイドレート燃焼実験
(R5.10 但馬まるごと感動市)

<参考> メタンハイドレート開発に向けた国の取組

これまで国の研究開発は、太平洋側に多く存在する「砂層型メタンハイドレート」を中心に行われてきたが、日本海側で存在が確認された「表層型メタンハイドレート」についても、平成25年度から資源量や回収技術に係る調査研究が進んでいる。

【スケジュール】

年 度	内 容
H25～H27	・広域地質調査、地質サンプル採取
H28～R1	・採掘・分離・揚収に関する有望技術を特定
R2～R9頃	・特定した有望技術による生産システムの研究開発、海洋調査の実施
R10～	・海洋産出試験の実施
R12頃まで	・民間企業が主導する商業化開始

3 発電所周辺地域の振興

電源三法（電源開発促進税法、特別会計に関する法律、発電用施設周辺地域整備法）に基づき、国の電源立地地域対策交付金を財源として公共用施設整備などの住民の利便性向上のための事業や地域の活性化を支援

(1) 水力発電施設周辺地域交付金

水力発電所が立地している6市町に対し、道路、地域防災拠点等のインフラ整備やソフト施策実施のための補助金を交付し、発電所周辺地域の振興を図る。



町道上岩宮野線の舗装修繕(神河町)



観光地でのフォトスポット整備
(朝来市神子畑)

対象市町	対象発電所	主な事業（R5年度実績）
神河町	大河内、市川、南小田第一、南小田第二	町道上岩宮野線舗装修繕事業
宍粟市	原、野尻、草木、上野、安積、神野	市道維持管理機械器具購入事業
豊岡市	阿瀬、石井、岩中	市道道場浅倉線路面補修事業
香美町	矢田川	町道香住港湾線舗装修繕事業
養父市	横行	市道横行岸谷線他舗装整備事業
朝来市	奥多々良木	市道伊由市場小西線道路改良事業 等

※交付対象：市町内水力発電所の評価出力が合計1,000kW以上、かつ基準発電電力量の合計が500万kWh以上のもの

交付期間：運転開始後15年経過、以降最大50年間

II 総合的な水資源対策等の推進

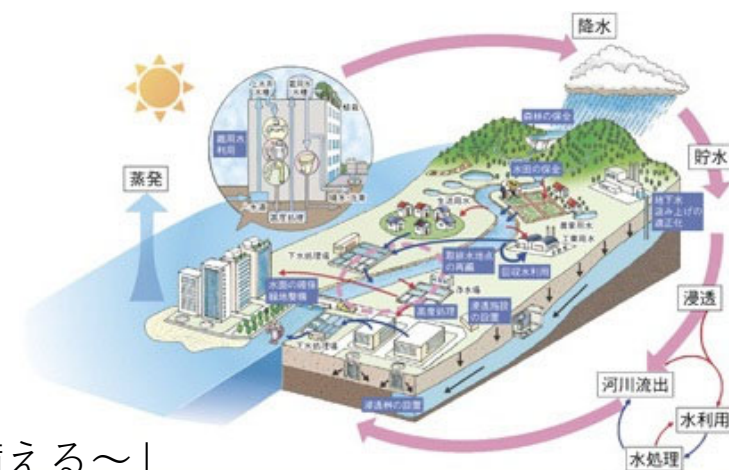
1 ひょうご水ビジョンの展開

平成27年度に改定した「ひょうご水ビジョン」のもと、水と共生する県民生活の構築を目指す

(1) 水ビジョンの概要

2030年度（目標年次）のめざすべき姿：

「水、さと、まちの共生 ～水を知り、水を活かし、水に備える～」



水循環のイメージ

基本方針	取組内容
① おいしい水をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・森林等の適正管理と保全による水源かん養 ・安定した水道供給の確保、 ・兵庫のおいしい「食」生活の推進
② 水をもっと上手に使う	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水、再生水、井水の利用推進 ・節水生活の普及、 ・水のエネルギー利用の推進
③ 水へのおそれ（畏れ、恐れ）を知り備える	<ul style="list-style-type: none"> ・流域全体で取り組む治水対策等の推進 ・防災教育と情報提供の推進、 ・渇水への備えの強化
④ 水の豊かさを守る、つくる	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺環境の保全と創造 ・生態系の保全と回復 ・水循環全体の周知
⑤ 水の文化、伝統を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・水文化の継承・創造 ・伝統産業の振興 ・水がつなぐ交流の推進



おいしい水のPR（小野市）

(2) 県民意識の醸成

項目	内容	R5年度実績
中学生「水の作文」コンクール	水に対する関心や理解を得るため、国土交通省と共催で次代を担う中学生を対象に作文コンクールを実施	応募総数341編（最優秀賞1、優秀賞3、入選16）
水の日（8月1日）広報イベント	① パネル展示や水の試飲等を通じて水の貴重さや大切さをPR ② 県内主要施設のブルーライトアップ（水をイメージ）	① R5年8月 丹波市 ② 神戸市等5市町8施設



水の飲み比べイベント（R5.8 丹波市）



明石海峡大橋のブルーライトアップ（R5.8 神戸市）

2 水資源対策の推進

(1) 広域的な水資源調整

安定した水資源の確保や良質な水源の保全など、琵琶湖・淀川水系の広域的な水資源調整を実施

(2) 渇水対策

渇水により県民生活等に重大な被害が発生する恐れがある場合には「兵庫県渇水対策本部」を設置するなど、広域的な調整を実施



一庫ダムの渇水状況（R6.2 川西市）
「水資源機構一庫ダム管理所」提供

ひょうごビジョン2050及び 地域創生の推進について

作成年月日	令和6年4月16日
作成部局名	企画部 計画課

目次

I	ひょうごビジョン2050の推進	
1	ビジョンの推進	01
2	ビジョンのフォローアップ	03
II	地域創生の推進	
1	地域創生戦略の推進	04
2	移住定住施策の推進	07



I ひょうごビジョン2050の推進






1 ビジョンの推進

(1) ひょうごビジョン2050の概要

「ひょうごビジョン2050」（2022年3月策定）を基本方針として、各分野計画に基づく施策を推進。また、県民主体の実践活動の拡大を図るとともに、対話の場、学びの場を各地で展開し、県民参画による地域づくりを推進し、「誰もが希望を持って生きられる一人ひとりの可能性が広がる『躍動する兵庫』」の実現をめざす。

【めざす姿】

誰もが希望を持って生きられる一人ひとりの可能性が広がる『躍動する兵庫』

5つのめざす社会	I 自分らしく生きられる社会	①自由になる働き方 ②居場所のある社会 ③世界へ広がる交流	1  HYOGO VISION 2050
	II 新しいことに挑戦できる社会	④みんなが学び続けられる社会 ⑤わきあがる挑戦 ⑥わきたつ文化	2  HYOGO VISION 2050
	III 誰も取り残されない社会	⑦みんなが生きやすい地域 ⑧安心して子育てできる社会 ⑨安心して長生きできる社会	3  HYOGO VISION 2050
	IV 自立した経済が息づく社会	⑩循環する地域経済 ⑪進化する御食国 ⑫活動を支える確かな基盤	4  HYOGO VISION 2050
	V 生命の持続を先導する社会	⑬カーボンニュートラルな暮らし ⑭分散して豊かに暮らす ⑮社会課題の解決に貢献する産業	5  HYOGO VISION 2050

(2) ビジョン実現に向けた分野計画の推進

地域創生戦略をはじめ、各分野計画をビジョンの実行プログラムと位置づけ、ビジョン実現に向けた県施策を推進

(3) 県民主体の実践活動によるビジョンの推進

ビジョン実現に資する活動を行うグループを「ビジョン推進チーム」として登録し、県民の実践活動を支援するなど、地域のめざす姿を描いた地域ビジョンを推進

【R5ビジョン推進チーム数】

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路
チーム数	6	53	15	34	30	34	32	31	13	24
人数	781	760	592	1,995	1,384	1,075	2,959	1,642	196	1,619

(4) ビジョンフォーラムの開催（対話の場づくりの推進）

多くの県民が集い、地域の未来を話し合う「対話の場」として、各地域でビジョン推進チームの活動発表のほか、地域のキーパーソンを交えたワークショップ等を実施する地域ビジョンフォーラムを開催

【R5地域ビジョンフォーラム開催状況】

地域	日程	会場
神戸	3月15日（金）	県立神戸生活創造センター
阪神	11月12日（日）	宝塚市立西公民館
東播磨	3月9日（土）	加古川総合庁舎
北播磨	8月23日（水）	小野市うるおい交流館エクラ
中播磨	1月30日（火）	姫路労働会館
西播磨	3月3日（日）	兵庫県立西播磨文化会館
但馬	3月2日（土）	但馬文教府多目的ホール
丹波	3月20日（水）	丹波の森公苑多目的ルーム
淡路	3月5日（火）	南あわじ市広田地区公民館



中播磨地域ビジョンフォーラム



北播磨地域ビジョンフォーラム

※ 阪神南北は合同開催

(5) 出前講座の実施（学びの場づくりの推進）

次代を担う若者が、自分や地域の未来を考え、新しい一步を踏み出すきっかけになるよう、ビジョンを素材に地域について学ぶ「若者出前講座」（40回）や、地域団体等への出前講座（12回）を実施

(6) 情報発信

「ひょうごビジョン2050」ポータルサイトにおいて、地域のキーパーソンや先進的な活動を行っている団体等へのインタビュー動画など、多彩なコンテンツを掲載



若者出前講座の様子



ポータルサイトのコンテンツ例

2 ビジョンのフォローアップ

(1) 兵庫のゆたかさ指標によるビジョンの点検評価

- ・ビジョンの推進状況を、県民の実感で捉える「兵庫のゆたかさ指標」を用いて点検・評価するため、県民意識調査を実施
- ・同調査を基に、ビジョンで掲げた15のめざす姿に関連する48の調査項目により、ビジョンの推進状況を把握

(2) 推進状況報告

県行政に係る基本的な計画の議決等に関する条例（平成18年4月1日施行）に基づき、ビジョンの実現に向けた令和4年度の推進状況を議会に報告（令和5年9月）

II 地域創生の推進

1 地域創生戦略の推進

(1) 概要

第二期兵庫県地域創生戦略（2020～2024）及び後期2か年の重点取組に基づき戦略を推進。若者・Z世代の学びや、住まい、子育て等について部局横断で支援

【後期2か年の重点取組】

3つの柱	R6年度の主な取組
<p><u>Frontier</u>～ポストコロナ社会を先導する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ GXの加速 ■ 2025大阪・関西万博等を見据えた関西・瀬戸内交流圏の形成 ■ 新たな技術や多様なチカラによる地域課題解決 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水素分野の技術・製品を有する県内企業の海外販路拡大支援 ・ 太陽光発電技術の実証実験や、自家消費型太陽光発電等の設置補助 ・ 産業立地条例に基づく成長産業の立地促進による産業の活性化 ・ 「ひょうごフィールドパビリオン」プログラムの磨き上げやプロモーションの展開、万博会場等における魅力発信等、大阪・関西万博に向けた取組の加速 ・ 市町連携による地域づくり人材の育成等、多自然地域の活力の創出 ・ 大学連携による起業に取り組み若者の育成や理工系人材の獲得促進
<p><u>Return</u>～地方回帰の流れを捉える～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 働き方改革先進県の実現 ■ 移住施策の強化 ■ シビックプライドの醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定制度の普及促進や女性の就業サポート等による女性活躍の推進 ・ 県内中小企業等との連携による奨学金返済支援制度の拡充 ・ 県営住宅への入居支援やリノベーション改修等による住宅支援 ・ 改修費用の補助等による古民家の再生や空き家活用の支援 ・ 部活動等に使用する備品等の整備等による学校環境の充実 ・ スポーツ教室の開催等、プロスポーツと連携した地域活性化
<p><u>Future</u>～将来世代への応援を強化する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 結婚・出産・子育て支援の充実 ■ 課題を抱える人への支援強化 ■ 教育への投資強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険適用外の先進医療費助成等、不妊治療支援体制の強化 ・ 県内中小企業等との連携による奨学金返済支援制度の拡充（再掲） ・ ふるさと寄付金を活用した子ども食堂の開設支援や弁当の配食等の実施 ・ 見舞金制度の創設等、犯罪被害者への経済的支援の充実 ・ 県内在住者の県立大学入学金・授業料を所得にかかわらず無償化 ・ 不登校児童生徒支援員の配置等、総合的な不登校対策の推進

(2) 今後の方針

次期戦略について、有識者等の意見等を踏まえ、方向性を検討

次期地域創生戦略策定のスケジュール

5月～12月	地域創生戦略会議(4回) (戦略案作成・検討) [適宜、県議会へ報告・協議]
12月	パブリックコメント
3月	議決・策定

(3) 戦略の実施状況

地域創生条例に基づき、戦略の実施状況を9月定例県議会に報告

【R4 戦略指標の達成状況】

目標	実績 (R4)
国を上回る一人当たり県内総生産 (GDP) の伸びを維持	〔実質〕 国105.1% < 県110.3% 〔名目〕 国111.8% > 県110.4%
住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思う人の割合が前年を上回る	R3 : 75.9% ⇒ 77.8%
2024年までに日本人社会減ゼロを目指す	目標▲1,068人 ⇒ ▲5,990人
20歳代前半の日本人若者の県内定着率	目標92.6% ⇒ 91.4%
5年間で25,000人の外国人の増加を目指す	目標15,000人 ⇒ 17,080人
2024年まで合計特殊出生率1.41を維持する	目標1.41 ⇒ 1.31
結婚したいという希望を叶え、2024年に婚姻数27,000件を目指す	目標26,000件 ⇒ 20,844件
平均寿命と健康寿命の差を縮める	目標：男性1.40未満、女性3.13未満 ⇒ R2 : 男性1.44、女性3.16
運動を継続している人の割合を高める	目標64.4% ⇒ 67.8%

(4)地域創生広報の推進

本県の魅力や地域創生の取組について効果的な情報発信を図るため、若者・ファミリー層などの対象者に応じた本県の魅力をPRすることにより、UJIターンの促進をはじめとした人口減対策に資する取組を推進



令和5年度地域創生通信

【令和5年度の主な取組】

項目	内容
メディアと連携した若年層向けイベント	本県ゆかりのアスリートをゲストに迎え、ラグビー体験やトークショーを実施し、県内の小学生100人と交流。その模様は、後日ラジオ番組で放送
兵庫県公式地域創生Instagram「love_hyogo」	<p>転出者が多い若年層等に訴求するため、若者がメインユーザーである「Instagram」を活用し、地域情報を発信。現在5万7千人を超えるフォロワーに対し、兵庫の魅力を取り切った写真やコメントの投稿を促し、SNSの強みを活かした効果的な広報活動を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォロワー数 57,125人 (R6.2.20時点) ・写真投稿数 約796,000件 (累計)
ひょうご地域創生通信	地域創生に係る取組やトピックスを分かりやすくまとめたタブロイド紙やWEB動画を作成する等、各種広報媒体を複合的に活用した広報を展開

2 移住定住施策の推進

(1) カムバックひょうご促進事業の実施

- ・ 県への移住を促進する相談窓口として、東京・大阪・神戸にカムバックひょうごセンターを設置
- ・ 県内市町と連携した移住促進セミナーの実施や、他団体主催イベントに出展
- ・ 令和6年度は、県単独での総合的移住イベントの開催や、移住マッチングサイト「SMOUT」等を活用し、情報発信を強化



東京センターの様子

【カムバックひょうごセンター概要】

区分	カムバックひょうご東京センター ひょうご移住プラザ	カムバックひょうごセンター (神戸)	カムバックひょうごセンター 大阪サテライト
開設	平成28年1月16日 (旧東京センター) 令和2年4月1日(移住プラザ)	平成29年2月22日 ※R4.7県庁(計画課内)に移転	令和3年4月1日
開所日時	火～日10:00～18:00	月～金9:00～17:00	金・土10:00～18:00 ※第2・3土市町・県民局相談
体制	移住相談員2名 就職相談員2名	移住相談員2名	移住相談員1名
R5相談等 件数	551件	270件	216件
業務概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住相談：県内の移住相談窓口、市町および地域NPO等への取り次ぎ ・ 出張相談の企画・実施：市町との合同相談会や移住イベントの実施等 ・ 広報業務：市町等による移住促進パンフレットの配布、移住イベントのPR等 		

(2) ひょうごe-県民制度の推進

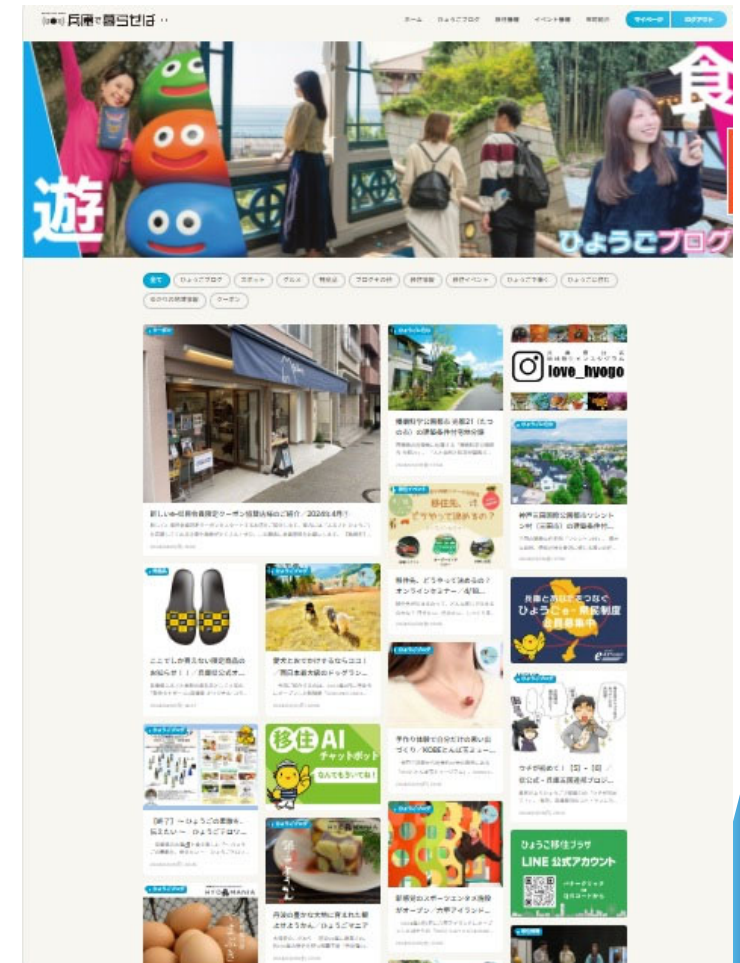
きめ細やかな地域情報を発信するひょうごe-県民制度について幅広い移住関心層をターゲットとした新たな移住メディアサイトと統合し、移住・関係人口の創出・拡大に向けた情報発信を強化

【ひょうごe-県民制度の登録状況】

- ・登録者数 83,013人（令和6年3月末時点）
- ※アプリDL者数 約38,000人

【主な取組実績】

- ・e-県民を通じた会員との「つながり」の構築
兵庫県に関心がある方へ定期的に情報を届けるため、ゆかりの地域情報等の発信や会員へのメールマガジン配信、有名ライターによる暮らしや地域の魅力を発信するブログ配信を実施



WebサイトTOP画面
※R6.4 Webサイト版へ移行予定

個性を生かす地域づくりに 向けた取組みについて

作成年月日	令和6年4月16日
作成部局名	企画部地域振興課

目次

- 1 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの推進……………P 3

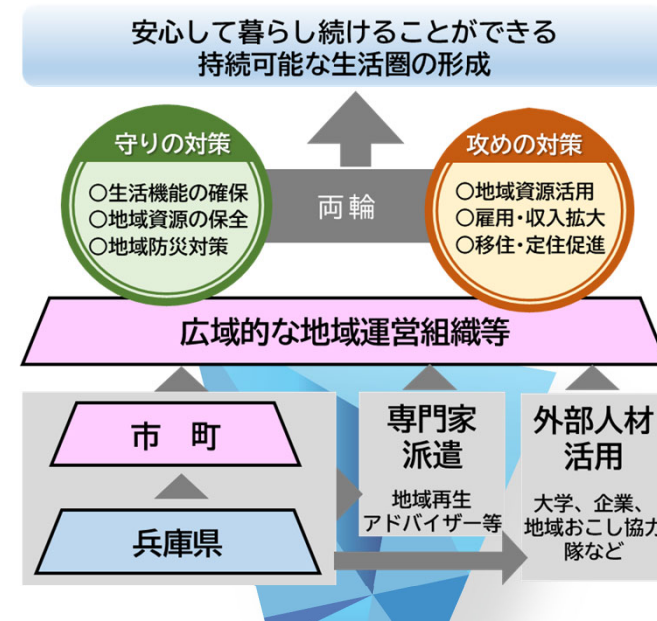
- 2 多様な地域資源の活用
 - (1) 日本遺産等の活用……………P 6
 - (2) 兵庫津ミュージアムを拠点とした地域資源の魅力発信……………P 7



1 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの推進

(1) 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの概要

- ・ H20～小規模集落対策「地域再生大作戦」の成果や課題を踏まえ、R5～本プロジェクトを始動
- ・ 都市部を含む37市町へ対象を拡大、広域的に支え合う地域運営組織を構築し、持続可能な生活圏の形成を目指す
- ・ 県は市町への専門的支援と広域的支援を担い、県と市町の重層的な支援体制のもとプロジェクトを推進



プロジェクト名	地域再生大作戦 (H20～R4)
対象地域	小規模集落 約800集落
対象市町	都市部を除く29市町 (対象外：神戸、阪神北、東播磨管内12市町)
支援対象単位	小規模集落の維持・活性化に向けた単発・部分的な地域
役割分担	県が主導
県	小規模集落に県が直接支援
市町	-

【問題・課題】

人口減少の更なる進展で
地域づくりに限界

小規模集落が
3倍に急増
(都市部でも増加)

個々の集落での地域
運営や担い手の枯渇

プロジェクト名	持続可能な多自然地域づくりプロジェクト (R5～)
対象地域	多自然地域の 全集落 約 3,000集落
対象市町	都市部を含む37市町 (対象外：尼崎市、芦屋市、伊丹市、播磨町の4市町)
支援対象単位	旧小学校区等の 広域的な地域運営組織等 の面的な地域
役割分担	県と市町の重層的支援体制
県	市町に対する 広域的、専門的支援
市町	市町による地域への伴走支援

1 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの推進

(2) 市町による伴走支援体制の確立に向けた支援

- ・市町や地域の熟度やニーズに合わせ自由度が高い事業費補助、市町職員の人材不足対策として人件費補助の両輪で支援
- ・特定地域づくり事業協同組合の設立による地域づくり人材の確保や移住・定住を支援
- ・大学や企業等との連携による外部人材活用を促進するための支援を実施

※金額は事業費上限、R6は予定

①「持続可能な生活圏」形成支援事業〔事業費補助〕 (対象：多自然地域37市町)

市町の総合的・戦略的な集落対策、地域対策等の立ち上げ等について3年間合計1,000万円(県1/2補助)を支援

【取組状況】 10市町〔R5：南あわじ市、神戸市、多可町、神河町、R6：6市町〕

フェーズ高

【集落対策】

⇒話し合いの場づくり、主体的活動、地域づくりビジョン策定

フェーズ低

【地域運営体制の構築】

⇒地域運営組織等の体制構築
多様な取組の実践

【持続可能な生活圏形成】

⇒住民自治の確立
・生活機能の確保
・雇用拡大
・地域資源の保全
・6次産業化 等

市町への補助事業

延べ37市町で取組(予定)

②市町地域伴走支援体制整備事業〔人件費補助〕 (対象：過疎地域等を有する17市町)

市町の地域伴走支援体制の立ち上げについて3年間平均約1,400万円(県1/2補助)を支援

【取組状況】 10市町〔R5：洲本市、香美町、R6：8市町〕

③マルチワーク組合支援事業〔検討・設立等補助〕 (対象：過疎地域等を有する17市町ほか)

組合の構想検討100万円(県1/2補助)、組合設立200万円(県1/4補助)、組合独自事業(R6拡充)100万円(県1/4補助)を支援

【取組状況】 3市町〔R4設立：香美町、淡路市、R6設立：丹波篠山市〕

④地域×大学×企業の「ひょうご絆プロジェクト」〔活動費補助〕 (対象：多自然地域37市町)

地域、大学、企業の連携による地域課題解決に資する活動(2者連携25万円、3者連携37.5万円 最大3年間)を支援

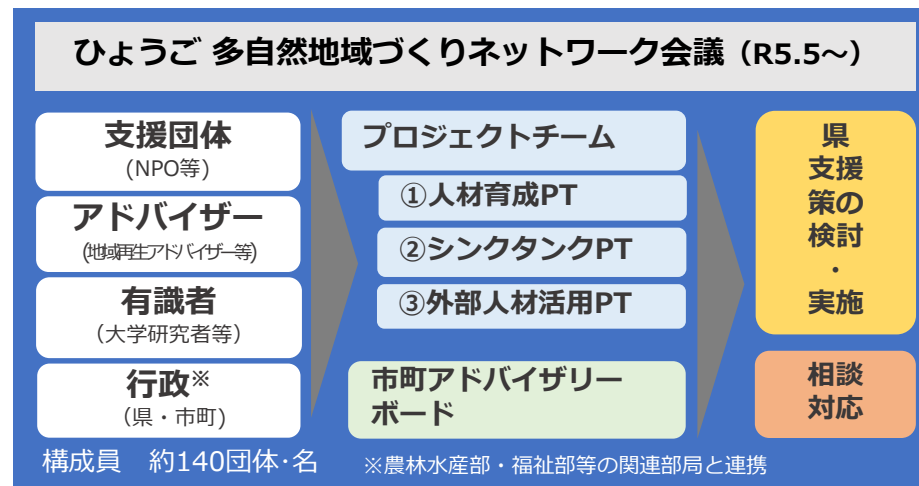
【取組状況】 14市町〔R5継続8+R5新規4(上郡町、香美町、加古川市、稲美町)、R6新規2市町〕

地域等への補助事業

1 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの推進

(3) 県による広域的・専門的支援

- 効果的な県の支援策の検討、市町支援の実施
 - ①市町職員・地域再生アドバイザー向け研修の企画・実施
 - ②地域づくり支援ツール・手引きの開発
 - ③関係人口拡大に向けた仕組みづくり
- 市町からの相談等に対応するため、地域再生アドバイザーを交えたアドバイザリーボードの設置
- 地域再生アドバイザー等の専門人材の地域等への派遣



①人材育成

- 〔R5実績〕
- 市町職員階層別研修 3回
 - 地域再生アドバイザー研修 4回
 - アンケート結果分析
- 〔R6予定〕
- 研修内容を検討し継続実施

市町職員階層別研修



②シンクタンク

地域づくり支援ツールの開発スケジュール

R5	集落の現状と将来を考える診断ツール ①集落カルテ ②集落の現在と未来マップ ③ツール活用・ワークショップ手法の手引き
R6	地域づくりのロードマップ作成・自己評価ツール
R7	集落が次にめざすフェーズに移行するための支援ツール

③外部人材活用

- 〔R5実績〕
- 関係人口拡大モデル事業効果検証
 - マッチング支援イベント 3回
- 〔R6予定〕
- 関係人口案内所のあり方検討
 - 民間サービスの活用の検討

マッチング支援 (地域×大学×企業)



市町アドバイザーボード

- 〔R5実績〕
- 37市町と意見交換実施後、地域の個別課題をテーマに9市町で開催
 - 課題解決に向け、県支援事業の活用結びついた
- 〔R6予定〕
- 引き続き市町の個別課題に応じ適宜開催

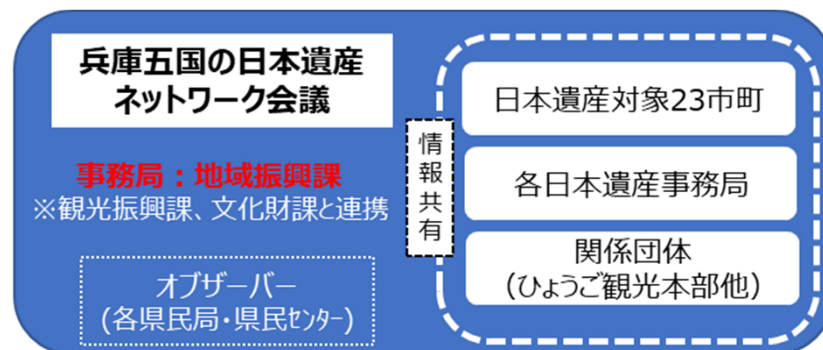


2 多様な地域資源の活用

(1) 日本遺産等の活用

① 日本遺産の活用促進

- ・全国最多9件の日本遺産が認定されている本県の強みを活かすため、県、関係23市町、関係団体で構成する県内日本遺産ネットワーク会議を運営
- ・構成団体間の相互交流や課題の共有、広域的な取組を推進
 - ▶兵庫の日本遺産展の開催
（「ツーリズムEXPO2023」（R5.10.26～10.29）に出展等）
 - ▶ひょうご日本遺産フォーラムの開催（R6.3.8）



② 山陰海岸ジオパークの活用促進

- ・平成22年度に世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークについて、兵庫県、京都府、鳥取県など37団体で構成する推進協議会で取組みを推進
- ・令和4年12月に示された2年間の条件付き再認定の審査結果を踏まえ、必要な改善策を講じ、今年予定されている審査で4年間の再認定を獲得
- ・大阪・関西万博を見据え、プロモーションの強化等を通じ、誘客を促進



ツーリズムEXPO2023出展

③ 「鳴門海峡の渦潮」世界遺産登録に向けた取組推進

- ・「鳴門海峡の渦潮」の世界遺産登録の実現に向け、兵庫県や徳島県など41団体で構成する協議会において、学術調査及び普及啓発を推進
- ・大阪・関西万博に向けて国内外に情報発信を行い、今後の世界遺産登録に向けた機運を醸成



山陰海岸ジオパーク推進協議会とユネスコ世界ジオパークネットワーク会長との会談（ギリシャ）

2 多様な地域資源の活用

(2) 兵庫津ミュージアムを拠点とした地域資源の魅力発信

- ・令和4年11月にグランドオープンした兵庫津ミュージアムにおいて、展覧会や各種イベント開催を通じ、兵庫県の成り立ちや兵庫五国の魅力を発信し、県民のふるさと意識を醸成
- ・大阪・関西万博を見据え、ひょうごフィールドパビリオンをはじめとする県内各地へ国内外の人々を誘う取組を展開

① 施設概要

		兵庫県立兵庫津ミュージアム	
区分		復元施設：初代県庁館	展示施設：ひょうごはじまり館
開館日		令和3年11月3日（水・祝）	令和4年11月23日（水・祝）
規模		延床面積：約498㎡（平屋建）	延床面積：約4,029㎡（地上4階建）
施設 内容		 <ul style="list-style-type: none"> ・現存する絵図等に基づき時代考証を行い、歴史空間を体感する施設として復元 ・復元を基本に、その範囲内で一部活用できるよう、利便性も確保 	 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史ミュージアム機能をもった県のPR施設として整備 ・千年の歴史を誇る港兵庫津の歴史、独自の過程を辿った県成立の歴史、変化・多様性に富む兵庫五国を展示
		<ul style="list-style-type: none"> ・県庁舎 ・旧勤番同心屋敷（貸館） ・取次役所（カフェ・休憩所） ・旧船見番小屋（事務室） ・長屋門、仮牢、番小屋、腰掛 	<ul style="list-style-type: none"> ・1階 常設展示室、ダイナミックシアター ・2階 企画展示室、ライブラリー、展望テラス ・3階 研修室、事務室、収蔵庫 ・4階 機械室
運営体制		総務・企画部門：指定管理者・アクティオ株式会社（R4～）、学芸部門：県	

2 多様な地域資源の活用

② 取組状況

○利用者数(R5年度)
※R5.4~R6.2

初代県庁館	59,746人
ひょうごはじまり館	117,882人
アウトリーチ活動	59,962人
計	237,590人

【参考】・月平均：約1万人（レゴ展開催期間：約2.5万人）※アウトリーチ活動除く
・年齢別割合：未就学児・小学生 47%、大人 45%、中・高・大学生・支援学校 8%
・アウトリーチ（出張展示、イベント出展）活動
兵庫運河祭（兵庫区主催）、魚河岸デー（神戸市中央卸売市場主催）への出展 等

○集客対策

区分	主な取組
平日対策	小学生等の校外学習の受け入れ、小学生の県庁見学コース、中学生のわくわくオーケストラ教室（県立芸術文化センター）のセット見学先への組込
休日対策	集客力のある企画展の開催（ひょうごレゴ展等）ファミリー向けイベントの開催（こどものまち兵庫津、新春五国のお酒を楽しむ会、むかしあそび、クリスマスジャズライブ等）の実施
共通	学芸員歴史講座、セミナー、共催イベント（こうべ環境博覧会等）開催等

○運営

▶ボランティアの受入れ

80名のボランティアを登録、初代県庁館ガイド・まちあるきガイドツアー等を担当

▶ミュージアムサポーター制度「ミュージアム倶楽部」の発足

（登録者数：184名 ※R6年2月末現在）



常設展



校外学習



こどものまち兵庫津(R5.11.4~5)

2 多様な地域資源の活用

○企画展の開催

- ・年4回、兵庫五国成立のルーツを踏まえ、五国各地の魅力を多彩な内容で発信
- ・展示、動画での解説だけでなく、講演会、ワークショップの開催、現地ツアー等を組んだ内容で実施

	テーマ	内容	期間	入館者数
R5	日本遺産 銀の馬車道・鉱石の道	・「銀の馬車道・鉱石の道」の歴史や文化の紹介 ※銀の馬車道・鉱石の道推進協議会（中播磨県民センター）と共催。朝来、姫路会場で巡回展示	R5.4.22～6.25	22,657人
	みんなで遊ぼう！ ひょうごレゴ展	・レゴの歴史、作品展示 ・レゴブロックで兵庫五国の作品制作 ・SDGs先進国デンマークの紹介	R5.7.15～10.15	72,662人
	ひょうごの匠展	・兵庫五国の地場産品や工芸品の紹介、制作体験 ・ひょうごフィールドパビリオンの紹介 ・兵庫津にゆかりのある大丸神戸店のあゆみ	R5.11.11.～R6.1.8	19,459人
	知られざる山城の魅力展	・播磨の山城紹介 ※西播磨ツーリズム振興協議会と共催	R6.1.27～3.24	10,672人 (2月末)
R6	温泉と西国三十三所巡礼	・江戸時代、人気の旅先であった温泉と西国三十三所の魅力と旅の軌跡を紹介	R6.4.27～6.23	—
	万国博覧会とひょうごフィールドパビリオン	・万国博覧会と兵庫の歴史 ・大阪・関西万博、フィールドパビリオンの紹介	R6.7.20～9.23	—
予定	兵庫津の商人	・江戸時代の魚肥流通の紹介	R6.10.12～12.8	—
	振り返る阪神・淡路大震災	・震災30年のあゆみ	R6.12.21～R7.1.19	—
	鳥瞰図絵師作品	・鳥瞰図絵師の作品を通した兵庫五国の魅力発信	R7.2.8～3.23	—



ひょうごレゴ展



ひょうごの匠展
(金物驚完成披露イベントR5.11.26)



知られざる山城の魅力展
(西はりま山城フェアR6.3.3)

○「兵庫学検定」の実施

- ・県民が兵庫の知識と愛着を高めることを目的として、新たに「兵庫学検定」を実施

▶検定日：令和6年2月12日(月・祝) ▶テキスト：ふるさと兵庫魅力発見！（中学生副読本、兵庫県教育委員会編）
 ▶受検者223名、合格者215名 ▶受検者の状況：年齢（7歳～87歳、平均年齢：57歳）、居住地（県内95%、うち神戸市内56%）